

令和3年度 第1回安全教育研修実施記録

東海ノア協定に基づく令和3年度第1回安全教育研修は、日本原子力研究開発機構の「原子力人材育成センター」を会場として、新型コロナウイルス感染防止の対策を講じて、10月5日（火）に、協定加盟5事業所から12名が参加して開催された。

研修は、前半を3時限に分けて講義を行い、後半に「放射線測定器の取扱い」及び「各種放射線測定」の実習が行われた。

【講じた感染防止対策】

- ・体調確認、検温、マスクの着用、手指の消毒
- ・講義の休憩時間に窓を開けて換気
- ・使用する資機材等の消毒

【講義】

- ・放射線の人体影響と放射線の防護
- ・原子力概論
- ・原子力概論

【実習】

- ・「簡易放射線測定器の取扱い」及び「各種放射線の測定」

- （1）オリエンテーションに続き、「放射線の人体影響と放射線の防護」についての講義が行われた。「放射線の特徴」、「放射能の単位と被ばく線量の単位」等の説明に続いて「放射線の人体への影響」が説明され、最後に「放射線の防護」が外部被ばくと内部被ばくに分けて説明された。
- （2）その後、「原子力概論」についての講義が行われた。「原子の構造と核分裂」、「原子炉と原子力発電のしくみ」という原子力の根幹から、「放射性廃棄物」更には「福島事故と今後の原子力」に至るまで、原子力全般が網羅されており、内容は次のとおり。「1. 原子の構造と核分裂」、「2. 原子炉と原子力発電のしくみ」、「3. 原子力発電所の安全性」、「4. その他の原子力施設（FBR等）」、「5. 放射性廃棄物」、「6. 原子力エネルギーの転用」、「7. 加速器について」、「8. 福島事故と今後の原子力」。
- （3）実習では、「放射線測定器の種類と特性及び取扱い方法に関する説明」に続き、外部被ばくを防護するため、①線源から離れ距離をとる、②線源を遮蔽する、③被ばく時間を短くするといったことについて、線源と電離箱式サーベイメータ、NaI（TI）シンチレーション式サーベイメータ及び半導体式ポケット線量計を用いた実習を行った。また、GM計数管式サーベイメータを用いて、表面密度の測定実習及び身の周りにある放射能や放射線を確認する実習を行った。

(4) 研修後に実施したアンケートの結果は、次のとおりであった。

- (a) 「カリキュラム」、「講義内容」、「実習内容」、「1日コース」、「本日の研修」について、10名～12名から「適当」との回答があった。
- (b) 一方、「カリキュラム」については1名から「物理の内容が少々多すぎるように思いました。」との回答が、「原子力概論（前半）の講義内容」については2名から「専門的過ぎる」との回答が、「1日コース」については1名から「長過ぎる」との回答があった。
- (c) 「原子力概論（前半）の講義内容」については「原子力施設の紹介はとても良かった。」との回答があった。
- (d) 「実習内容」については「とても参考になり、有意義でした。」、「大変丁寧に教えていただいたので初めての測定でもついていく事ができました。」との回答があった。
- (e) 「本コースについてのご意見、ご要望等」については「具体的な注意点が分かり、とても良かったです。」、「業務中に疑問に感じていた事について色々と分かり、良かったです。」、「良い研修だったと思います。」、「感染予防の徹底をしていただき、安心して研修ができました。」、「職場で学ぶことができない原子力の深い知識を身に付けることができた。」との回答があり、好評価であった。
- (f) 「事務局についてのご要望等」についても「勉強する機会をいただき、ありがとうございました。」、「改めて基本に立ち返って勉強することができました。」との回答があり、好評価であった。

講義及び実習の様子



講義



講義



実習講義



実習



実習



実習



実習

以上